
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 392 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2016.11.18（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 981 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 正すべきは地図——アメリカ大統領選に思う 小泉浩郎

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

<お知らせ 2> 第 155 回定例（現地）研究会＝玉川上水を巡る

<編集後記> アメリカの分裂

<巻頭言> 正すべきは地図——アメリカ大統領選に思う

TPP 深夜バス（内容も行く先の不明）は、暗雲垂れこめる大きな山にさしかかった。運転手（アメリカ）は、途中下車するらしい。

日本は 3 年前、頭を下げて途中乗車した。いくつかの約束をのんで補助席に座らせてもらった。今は車掌になり運転助手となりアメリカの片腕である。その責任を感じたのか、日本だけが、濃霧の中「この道しかない」とアクセルを踏み込んでいる。新自由主義、グローバリゼーション、アベノミクスで道筋を立てた一片の地図を片手にした無謀の出発である。

アメリカの大統領選挙、多くの予想に反してトランプ候補が勝利した。選挙中、TPP 即離脱を口にしてきただけに、その参加は絶望的である。だが、安倍政権は、トランプ候補が勝利したその翌日、国民の半数以上が反対・内容不明としているのに、衆議院を強行可決、議論は参議院に移っている。これも時間がくれば自然成立する。

アメリカは、この選挙戦を通して多くを学ぶ機会となった。まさかの結末は、政界、財界、報道界、学会などのエリート層には衝撃だった。「この道しかない」という一片の地図で世界に開くアメリカを演じてきたが、国内には、取り残される場所があり、忘れられた人々が多数生まれることになった。今回の選

挙は、そこでの不満や怒りが表面化し、世界を動かす力になった。

アメリカの大統領選は、トランプが勝ったのではない。地球も大事、世界も大事、経済成長も大事だが、何よりも大事なのが、自分のいのち、足元の生活だと一票を投じたサイレントマジョリティ（声高に自分の意見唱えることをしない市井の人々）の悲痛の叫びであった。

一片の地図（アベノミクス・TPP）を持って山（日本の将来）に登る。この道しかないと思える一本道を何の反省もなくただ歩く。深い溪谷や切り立った岩壁がある。力ある者だけが残るが結局は山中に迷い込む（国の混迷）。それでも地図は正しい、現場が悪いと責任をとらない。多分、この選挙でアメリカの地図は、現場の要望を反映した誰もが歩ける地図へと変わっていくように思う。繰り返すが、山が悪いのではなく、地図が間違っていたのだ。正すべきは地図、まだ遅くはない。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.139』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

いまなぜベーシックインカムか

——これからの「百姓的」生き方を支える政策提言◎白崎一裕

[第154回定例研究会]

グローバル化から「農本化」としてのローカリゼーションへ◎関 曠野

[第42回研究所総会・第40回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎小泉浩郎

第 40 回山崎記念農業賞贈呈式（栃木県益子町・(株)川田農園）

選考委員報告◎渡邊 博

お祝いの言葉◎加藤敏之／松本 謙

受賞者挨拶◎川田 修

■総会記念フォーラム：

「こだわり」で結び合う農と食—農園と厨房をつなぐ川田農園の挑戦

I 解題：川田農園が教える食と流通◎小泉浩郎

II 我が国における有機農業の動向◎家常 高

III 栃木県の 6 次産業化振興と川田農園の特徴◎小林俊夫

IV 「農園」から「厨房」まで◎川田 修

参加者の声◎若林祥子／内田空美子／丸山紀之／堀 泰史

[特別対談]

川田農園の今と明日を語る◎松本 謙×小泉浩郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(10)

なぜ日本人は、「天地自然」に惹かれるのか／宇根 豊

<お知らせ 2> 第 155 回定例（現地）研究会＝玉川上水を巡る

昨年、山崎農業研究所の安富六郎前所長が『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』を出版されたこともあり、農業土木との関係が深い武蔵野台地用水、江戸町生活支えた玉川上水を訪ねての現地研究を 10 月 29 日に開催しました。現地見学に先立ち、羽村郷土歴史館に隣接する市の集会場、「清流会館」で安富前所長から 1 時間ほど話題提供していただき、午後からマイクロバスに乗って、いくつかの地点を見学しました。

当日の行程は以下のとおりです

11：00～12：30 安富前所長の講演と意見交流：羽村市清流会館→

12：40～13：10 羽村堰見学→13：10～13：30 羽用水（車窓）→

14：30～14：50 府中用水堰（青柳）→中用水堰（青柳）→

15：30～16：00 野火止用水分堰→16：40 千川上水分点（車窓）→

17：00～17：10 三鷹～井の頭公園間の玉川上水（車窓）→

公園間の玉川上水（車窓）→17：30～19：30 懇親会

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

(農文協、199 ページ、定価 1700 円 (税別))

www.amazon.co.jp/dp/4540142631

<編集後記> アメリカの分裂

アメリカ大統領選の結果がでたその日、今年高校年になった次男がボソッと言った。「発展してるところはクリントンで、そうでないところはトランプなんでしょ」。

ニューヨークタイムズの記事によれば、主要都市ではクリントン候補が圧倒的に強いのに、地方都市や校外ではトランプが逆に圧倒している。要は、大都市と中小都市、郊外・農村で意見が大きく分かれたということらしい(ただし、得票数自体はクリントン候補のほうが僅差で上回った!)。このことはグローバリゼーションの恩恵を受けてきたか否かの違いともいえるだろう。

「ラストベルト (疲弊した工業地帯)」の凋落ぶりは、日本人が想像しているよりもずっとひどいことも今回の選挙戦中の報道を通じてようやく伝わってきた。トランプ候補は選挙戦中、国内の雇用を奪うという理由から TPP 反対をずっと唱えてきた(クリントン候補は“現状の” TPP 協定に反対という立場)が、グローバリゼーションが先進国の雇用(とくに製造業)を奪うというのは相当程度当たっている。グローバル企業にとってどこで製造するかはいちばんの基準は、コスト=生産費=労働者の賃金だからだ。

もちろん、トランプ大統領が生まれたとしても、アメリカの製造業がかつてのようになるかどうかはさうとう怪しい。だがアメリカによる TPP の早期承認の芽はこれでなくなったはずだ。そんなときに日本では、TPP 関連法案が衆議院で可決された(11/10)。“意味不明”とはこのことである。

今回の大統領選の結果は「大方の予想をうらぎる」ものだという。しかし「大方の予想」とは何か。振り返ってみれば、それは大手マスコミや研究者の予想である。あえて不正確かつ嫌味な言い方をすれば、それはクリントン候補の発想により近い側の人間たちの予測であったといえないか。

不思議でならないのは、トランプ大統領誕生を伝えるニュース等の解説のほぼすべてが、TPP がこれからどうなるのか、もっと言うと、TPP 構想がこのまま潰えてしまうのではないか、という悲観的な論調が多いことだ。それはなぜか？自分たちをグローバリゼーションの恩恵を受ける側だととらえている人間たちの予想だからではないか。そういう人たちの解釈は相当程度眉に唾をつけて聞いたほうがいい。

2016年11月17日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 393号の締め切りは11月28日、発行は12月01日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 392 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2016.11.18（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****